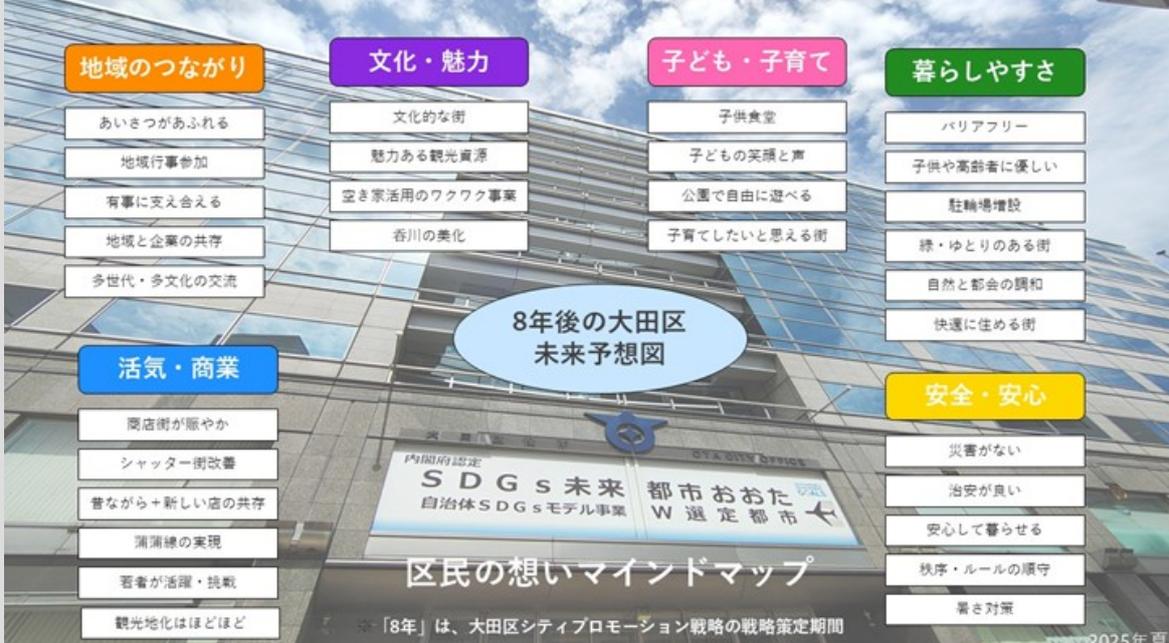


想いをつなぐ大田区地域活性計画

大人が感じる課題は、未来の私たちが受け継ぐ課題



問い:8年後の大田区は、どんな街になっていて欲しいですか？

石原 歩佳(いしはら あゆか)
法政大学第二高等学校 2年

想いをつなぐ大田区地域活性計画

大人が感じる課題は、未来の私たちが受け継ぐ課題

石原 歩佳



大田区役所前

活動概要

活動の内容

8月

- 大田区広聴広報課及び産業振興課に協力依頼とヒアリング
- 大田区魅力発信SNS開設
- 羽田空港で観光客の動向調査と「大田区の観光」パンフレット配布
- 地区青少年対策委員会副会長に協力を依頼
- アンケート作成と回答依頼(大田区役所・観光協会・静岡県及び大田区(青少対)の皆様・観光関係者他)
- アンケート回答回収集計
- 高校生視点の観光リーフレット作成、SNS発信
- 「大田区地域活性計画」とマインドマップ作成

9月

- 区内ホテルに協力依頼、「観光業スキマボランティア」を実施
- 大田区及び地域の協力者に報告
- 広聴広報課「わたしの提案」提出

活動の特徴(新規性・発展性)

多角的な調査の結果、大田区の真の課題は「認知度向上」であると気づき、認知度向上、地域活性、教育の3つの軸を大切に活動しました。大田区役所や地域、観光業での実践活動を経て、高校生視点の提案を広聴広報課の制度を活用し行いました。好きなこと・関心のあることから始めてほしいという想いを込め、若者の参画が少ない点に着目し、安心して活躍できる居場所づくりや、持続可能な地域活性化の仕組みづくりに繋がりたいです。

活動の成果

提案提出後、区役所各課から励みになったと声をかけて頂きました。その結果、区民協働、若者参画、施策のアイデア等の意見交換を行うこととなりました。自分の行動で誰かの心を動かし、新たな取組の芽が生まれたことがこの活動の成果だと考えます。さらに区内ホテルで「若者の観光スキマボランティア」を活用してみたいという言葉頂きました。大田区でより気軽に若者が社会参画できる仕組みが広がる事を心から期待したいです。

課題の設定と意図

最初の課題は「観光客に通過されない大田区」でした。合宿で、観光と地域活性の関連性の高さを学び、昨年の高校生の発表を見て、「勇気を出して主体的に地域課題に取り組み、地域の活性化につながるのでは」と感じました。大田区は東京都の南部に位置し、日本の玄関口「羽田空港」があることで知られています。現在、東京都全体のインバウンド需要の影響で、「大田区にも観光客は増えているのだろうか？」疑問を抱きました。

私は大田区で生まれ、この街を「自分の居場所」として大切に思っています。小学生の頃から青少年地区対策委員会リーダー講習会(以下:青少対)に参加し、高校生リーダーとして活動中です。また、学習支援・福祉ボランティアなど、自分のできる地域課題にも取り組んでいます。これまでの地域活動の集大成として、この街の“人情深い魅力”をもっと多くの人に届けたいという想いがあります。しかし、地域探究していく中で若者の関わりが少ないという課題が見えてきました。若者が、気軽に地域の課題解決に取り組み、貢献できる仕組みを考えたいと思いました。世代を超えた地域づくりは、災害時の地域共助や教育支援など思わぬ効果を生むと思います。

課題解決のための仮説と計画

【仮説】

「羽田空港を活かし観光誘客すれば、地域活性につながるのではないか」→誘客は一定の成果あり→「認知度を上げることが、地域活性につながるのではないか」

【計画】

- ①情報収集と現況調査 (1)アンケート調査(93件) (2)インタビュー調査(12件) (3)ヒアリング調査 (4)大田区公式資料
- ②整理・分析(真の課題発見)大人が感じる課題は、未来の私達が受け継ぐ課題”→目標は「認知度向上」「地域活性」「教育(体験活動の充実)」を軸に、区に提案する
- ③若者の参画促進と持続可能な仕組みづくり「大田区地域活性計画」作成
 - 提案1大田区×SNS コニエックおおたInstagram発信力強化による認知度アップ(1)発信力強化(2)区民協働(3)参加型発信の工夫を提案
 - 提案2大田区×富士山 大田区ランキングによる観光PR強化 富士山ビュースポットをアンケートで集め、ランキング形式で紹介するリーフレットを作成→特集展開を提案
 - 提案3大田区×若者 安心して若者が活躍できる「居場所」づくり (1)大田区主催「若者会議」(2)観光スキマボランティア制度 ことも基本法による若者社会参画推進
- ④フィードバック取得-(1)区役所、地域、観光業に探究報告し、制度化の可能性を探る (2)東京インにて観光業ボランティア体験実施
- ⑤大田区広聴広報課「わたしの提案」作成と提出、区民の想いマインドマップを添える
- ⑥提案提出後、関係各所よりフィードバックをもらい、意見交換、政策参画、地域活性の機会を得る→現在も地域の協力者様と地域活性イベントを計画中



大田区産業振興課ヒアリング調査



株式会社東京インにて地域の協力者への報告

活動で工夫できたこと

御殿場までの交通費含め探究活動費は9,800円でした。青少対もそうですが、公共性の高い団体による体験活動は、費用や安全面で安心でき、体験・教育格差の是正にもつながります。SNS等に体験活動の情報があふれていますが、団体の信頼性や費用の妥当性を判断するのは難しいです。教育・福祉に関心がある私は、地域での多様な体験から得た学びや試行錯誤を次世代に還元したいと考え、今回の地域探究にも取り組みました。大きなことを成し遂げる必要も、高額な費用をかける必要もなく、誰もが気軽に地域課題に取り組み始める活動にすることを意識しました。

これまで青少対リーダー講習会や学習支援、福祉ボランティアなど、自分のできる範囲で地域課題に取り組みできましたが、合宿での学びを展開し、無自覚だった地域課題に気づき「ジブンゴトとして地域と向き合う」意識が芽生えました。そして、区民の福祉の増進、行政サービス水準の向上、公益性の高い取り組みであることの3点を意識して課題解決案を提案しました。

また、私は以下の3点を工夫しました。

①多角的な調査・協力者探しの工夫

羽田空港のインタビュー調査では急いでいなさそうな人を見極め、不審に思われないよう制服を着用。英語部での経験を活かしましたが、1人では協力が得られず心が折れそうになることも。企業や区役所には通常業務を妨げないようメールで連絡。調査の難しさと社会で行動する責任を実感しました。

②「内から」と「外から」見た大田区を調査

自分にとって暮らしやすい街でも外部には魅力が伝わっていないことに気づき、SNS発信力強化や観光リーフレット作成を通じて、高校生視点で魅力発信に挑戦しました。

③若者が安心して活躍できる居場所づくり

行政主催の体験活動の充実、若者が安心して挑戦でき、教員の負担軽減にもつながります。地域活動に関心はあっても「きっかけがない」「一人が不安」と感じる層にも届くよう工夫しました。



大田区広報広聴課「わたしの提案」提出

活動で得た学び・気づき

区内アンケートでは、高校生の私では解決が難しい、蒲蒲線やコミュニティバスといった交通インフラ整備、学校改修や呑川の美化といった環境整備など、幅広いご意見をいただきました。多くの区民の声に触れ、地域への想いの強さを改めて感じました。また、大人が感じる課題は、未来の私達が受け継ぐ課題でもあることが大きな気づきでした。

【自分の未来は、自分の掌の中に！】

地域課題を見つけ、自分事として探究を実践し、自ら行動する。これらは教室内だけでは得られない経験です。未知との遭遇の連続、机上では習得できない学びを深め、自分の在り方や生き方(社会や地域との関わり方)を見つめ直しました。学校の枠を超えた出会いで視野が広がり、先入観にとらわれないキャリア形成をしていきたいと思えます。

【モトリアムタイムの収穫物】

勇気を出して一歩踏み出したことで、静岡県御殿場市の皆様に背中を押していただき、大田区の皆様には手を差し伸べていただきました。観光客や観光関係者との対話を通して、コミュニケーション力や考えを言葉にする力も向上。個人エントリーで最初は緊張しましたが、1人で行う実践活動を通して「人に頼る勇気」を得ました。“社会に出るまでの準備期間”にこの勇気を得られた事は、私にとって非常に大きな収穫です。そして私も、誰かに頼られたときには優しく手を差し伸べられる人でありたいと感じました。

【羽田空港は、大田区民の誇り】

区内外で圧倒的認知度を誇る羽田空港は、区民が自慢できるシンボルです。実践活動中に知った、区民悲願の蒲蒲線の実現や羽田エリア中心の大規模開発は、空港があるこの地だからこそ進められるものであり、その存在自体が誇るべき資源であると実感しました。留学費用の高騰により高校での留学は断念しましたが、いつかこの活気と笑顔あふれる自慢の羽田空港から自分の力で留学に飛び立ちたいと決意しました。

【英知を尽くす大人たちの存在】

大田区の観光振興や認知度向上に向け、「産業振興ビジョン」や「シティプロモーション戦略」など、さまざまな施策が進んでいることを知りました。73万人の暮らしを支え、地域課題に真正面から向き合う大人たちの姿に強く刺激を受けるとともに、若い世代の関与がまだ少ないことにも気づきました。その背中を見て思ったのは、私たちが新しい風となり、「できない」から始めない姿勢で行動することが大切だということです。

私たち自身が、目の前の「夢中になれること」「関心のあること」から主体的に地域と関わり、学び、活躍する場を創っていくことで、大田シティプロモーション戦略の“えらばれるまち大田区”は実現できると信じています。

今後の展望・新たな取組み

今回の提案内容は、行政判断も関わるため、高校生が実施するのは難しいかもしれませんが、それでも、大田区で育った私だからこそ、地域の未来を担う子どもたちに繋げていけるような取り組みを、少しずつ形にしていきたいです。具体的には、次の3つの行動に取り組みます。

●青少対リーダー講習会の大学生リーダーになる

この地域探究プログラムの参加動機の一つでもある青少対活動を、今後さらに発展させていきたいと考えています。尊敬すべき先輩方が身近にいて、その姿に日々刺激を受けています。私も大学生リーダーとして活動を継続し、私が大切にしているこの「居場所」が、小学生たちにとっても安心できる空間であり続けるよう、見守り支えていける存在になりたいです。青少対OBだと話して下さった区役所職員の方との出会いも、私の原動力になりました。子どもたちの成長を見守ることや、居場所をつくることに大きなやりがいを感じており、支えてくださる委員さん達とともに、地域の活性化にも貢献していきたいです。

●国立青少年教育振興機構のボランティア研修を受講する

現在も地域で学習支援や社会福祉ボランティアに参加し、将来、教育に携わるための学びを深めています。この探究プログラムで得た経験を未来の子どもたちにつなげるため、ボランティア研修を受け、交流の家等イベントに参加し、実践的にスキルを磨いていきたいです。その学びを教員免許取得や今後の地域活動にも活かしたいと考えています。

●大田区の認知度を上げる

2026年3月開催ヤングフェスーOh!!盛祭ー(地域の若者文化祭)の実行委員長を務めることになりました。地域の若者や大人と共に多くの人が楽しめる祭を創り、地域を盛り上げ、大田区の認知度向上に貢献したいです。

課題に向き合う地域探究は、一度きりのものではなく、昔から人が暮らしの中で、何度でも立ち返るべき大切なプロセスです。そうした継続的な姿勢の積み重ねの先に、今の大田区があり、これからの発展があるのだと気づきました。AIが課題を効率的に解決してしまう令和の時代に生きる私たちだからこそ、フィールドワークや試行錯誤の中で人間しか得られない「気づき」を大切に、これからも答えのない問いに向き合える自分でありたいと思えます。

最後に、大田区を飛び出してこの合宿に参加し、国立中央青少年自然の家関係者の皆様には、熱心なご指導と貴重な機会を頂き、心より感謝申し上げます。私も探究の芽を育て、未来の子どもたちが「学ぶ楽しさ」に出会う瞬間に立ち会えるような仕事に携わりたくと改めて強く思いました。

私の思う、大田区の最大の魅力は「人」です。この夏の経験を通して、改めて感じるものが出来ました。特にアンケートは匿名だったため、ご協力くださった皆様へ、お礼を伝える機会はありません。だから、この場を借りて、私の経験や成長にご協力いただいた方、全ての方にありがとうございました。

動画URL	二次元コード	添付PDF あり

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	関東・甲信越
---------	---	---------	----	------	--------

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立中央青少年交流の家	修了日	2025/7/21	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	秩父宮記念公園を訪問し、現地の見学及び同園の取組の説明を受けた。豊かな自然や歴史ある建造物に触れ、その魅力を発見するとともに、御殿場の観光業が抱えている課題について探究を行った。				
実践活動期間	2025/7/30 ~ 2025/10/21				
活動のタイプ	新たな活動				
共同実施者	無				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	大田区青少年対策地区委員会		アンケート協力、報告会実施	
	氏名	内橋様			
	所属	株式会社東京イン		ヒアリング調査、ボランティア体験、報告会実施	
	氏名	高畑様			
	所属	大田区役所		ヒアリング調査(大田区の現状と課題)、報告、提案	
氏名	産業振興課石川様、広聴広報課清水様				
協力者総数	105名		協力団体数	4団体	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 38 日

事前:準備・打合せ	23日	本番:メインの活動	10日	事後:ふりかえり・報告	5日
-----------	-----	-----------	-----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
SNS	自ら発信	3回以上	SNS開設、大田区の魅力発信
その他	自ら発信	3回以上	「富士山ビュースポットランキング」、「区民の想いマインドマップ」を作成し配布

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/30 ~ 8/5	②実践活動本番	羽田空港(国内線/国際線)、池上本門寺	観光客にインタビュー調査(12件)
7/30 ~ 9/20	②実践活動本番	大田区役所、株式会社東京イン、メール	大田区の現状や課題についてヒアリング調査、フィールドバックと案のブラッシュアップ
8/20 ~ 9/6	②実践活動本番	富士見橋、多摩川、池上本門寺、御嶽山駅等	アンケート調査で集計した富士山ビュースポット8か所撮影し、リーフレット作成
8/8 ~ 9/20	②実践活動本番	自宅	アンケート作成→配布→回収(93件)→集計、報告会準備
9/10 ~ 10/1	③事後打合せ・報告会等	大田区役所、株式会社東京イン等	協力者や地域の方への報告会、大田区広聴広報課へ「わたしの提案」提出